

2025年3月期 決算説明会

2025年6月6日



1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 中期経営計画の進捗および資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
3. トピックス

1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 中期経営計画の進捗および資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
3. トピックス

2025年3月期 連結決算ハイライト

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期	増減額	増減率
売上高	72,874	73,337	+462	+0.6%
営業利益	4,452	3,108	△1,344	△30.2%
経常利益	6,059	3,215	△2,844	△46.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	12,261	2,772	△9,488	△77.4%

- 売上高は、ガラスびん関連事業は減収となったものの、他報告セグメントにおいては増収となり、増収
- 営業利益は、主にガラスびん関連事業において、出荷量・生産量が減少、燃料・動力価格の高止まりに加え、減価償却費や物流費、労務費等が増加したことにより減益
- 経常利益は、主に持分法による投資利益において、前期に計上した米国の関連会社からの貸付金が全額返済されたことによる利益増加等の特殊要因がないことにより減益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、主に前期に計上した固定資産売却益や関係会社出資金売却益等の特殊要因がないことにより減益

2025年3月期 セグメント別実績前年対比

◆ガラスびん関連事業

百万円	2024年3月期	2025年3月期	(増減額)	(増減率)
売上高	47,753	47,043	△709	△1.5%
セグメント利益	3,712	2,143	△1,568	△42.3%

- 売上高は、当社において、価格改定や品種構成の影響で販売単価が上昇したものの、出荷量が減少し、減収
- セグメント利益は、当社における出荷量・生産量の減少、燃料・動力価格の高止まりに加え、減価償却費や物流費、労務費等の増加により減益

2025年3月期 セグメント別実績前年対比

◆プラスチック容器関連事業

百万円	2024年3月期	2025年3月期	(増減額)	(増減率)
売上高	7,556	8,269	+713	+9.4%
セグメント利益	430	563	+132	+30.9%

- 売上高は、当社において、飲料用キャップの出荷が増加したことに加え、価格改定により販売単価が上昇したこと、中国の子会社において販売が好調であること等により増収
- セグメント利益は、主に中国の子会社において、販売量が増加したことに伴い生産量増となったこと等により増益

2025年3月期 セグメント別実績前年対比

◆物流関連事業

百万円	2024年3月期	2025年3月期	(増減額)	(増減率)
売上高	14,660	14,744	+83	+0.6%
セグメント利益	651	769	+118	+18.1%

- 売上高は、新規営業所開設等による取扱い物量の増加により増収
- セグメント利益は、作業・配送効率の改善や不採算案件の取引条件改定等により増益

2025年3月期 セグメント別実績前年対比

◆ニューガラス関連事業

百万円	2024年3月期	2025年3月期	(増減額)	(増減率)
売上高	2,751	3,107	+356	+13.0%
セグメント利益	△197	186	+384	-

- 売上高は、当社における電子部品用ガラスの出荷が堅調に推移したことに加え、国内子会社における光通信用キャップ部品の出荷が増加し、増収
- セグメント利益は、国内子会社における出荷や生産量の増加、コスト削減等の損益改善により黒字に転換

連結貸借対照表－資産の部

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	(増減額)
流動資産	41,709	40,409	△1,300
現金及び預金	10,990	10,791	△199
受取手形及び売掛金	20,787	19,705	△1,082
棚卸資産	8,829	9,122	+292
その他	1,101	790	△310
固定資産	52,435	54,444	+2,009
有形固定資産	26,126	26,340	+214
無形固定資産	185	441	+256
投資その他の資産	26,123	27,662	+1,538
投資有価証券	2,685	2,865	+179
関係会社株式	20,698	21,901	+1,203
その他	2,739	2,895	+155
資産合計	94,144	94,853	+709

・受取手形及び売掛金
主にガラスびん関連事業の売上高の減少

・関係会社株式
円安による為替換算差により増加

連結貸借対照表－負債の部

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	(増減額)
流動負債	21,836	19,435	△2,401
支払手形及び買掛金	8,281	7,400	△880
短期有利子負債	6,361	7,077	+716
その他	7,194	4,957	△2,237
固定負債	20,714	21,041	+326
長期有利子負債	17,529	17,588	+59
その他	3,185	3,452	+267
負債合計	42,551	40,476	△2,074
株主資本	49,683	51,505	+1,822
資本金	14,074	14,074	—
資本剰余金	16,625	16,592	△32
利益剰余金	20,549	22,369	+1,820
自己株式	△1,566	△1,530	+35
その他の包括利益累計額	1,746	3,276	+1,530
非支配株主持分	163	△405	△568
純資産合計	51,593	54,377	+2,783
負債・純資産合計	94,144	94,853	+709

・その他
主にガラスびん製造設備更新に係る未払金の減少

・その他の包括利益累計額
円安による為替換算調整勘定の増加

2025年3月期 セグメント別実績計画対比 売上高

単位：百万円	2025年3月期 計画	2025年3月期 実績	増減額	増減率
ガラスびん関連事業	48,900	47,043	△1,857	△3.8%
プラスチック容器関連事業	8,000	8,269	+269	+3.4%
物流関連事業	15,600	14,744	△856	△5.5%
ニューガラス関連事業	3,000	3,107	+107	+3.6%
その他	500	172	△328	△65.6%
合計	76,000	73,337	△2,663	△3.5%

- ガラスびん関連事業において、国内出荷量が減少したことにより減収、物流関連事業において、前期実績は上回ったものの、新規得意先が計画通り獲得できず減収となり、全体として減収

※2025年3月期計画値は、2024年5月15日公表の見直し計画

2025年3月期 セグメント別実績計画対比 経常損益

単位：百万円	2025年3月期 計画	2025年3月期 実績	増減額	増減率
ガラスびん関連事業	2,000	2,143	143	+7.2%
プラスチック容器関連事業	200	563	363	+181.5%
物流関連事業	600	769	169	+28.2%
ニューガラス関連事業	100	186	86	+86.0%
その他	△ 400	△ 447	△ 47	—
合計	2,500	3,215	715	+28.6%

- ガラスびん関連事業において販売単価が上昇したことにより増益、プラスチック容器関連事業において販売量が増加したことおよび販売単価が上昇したことにより増益、物流関連事業において損益改善により増益となり、全体として増益

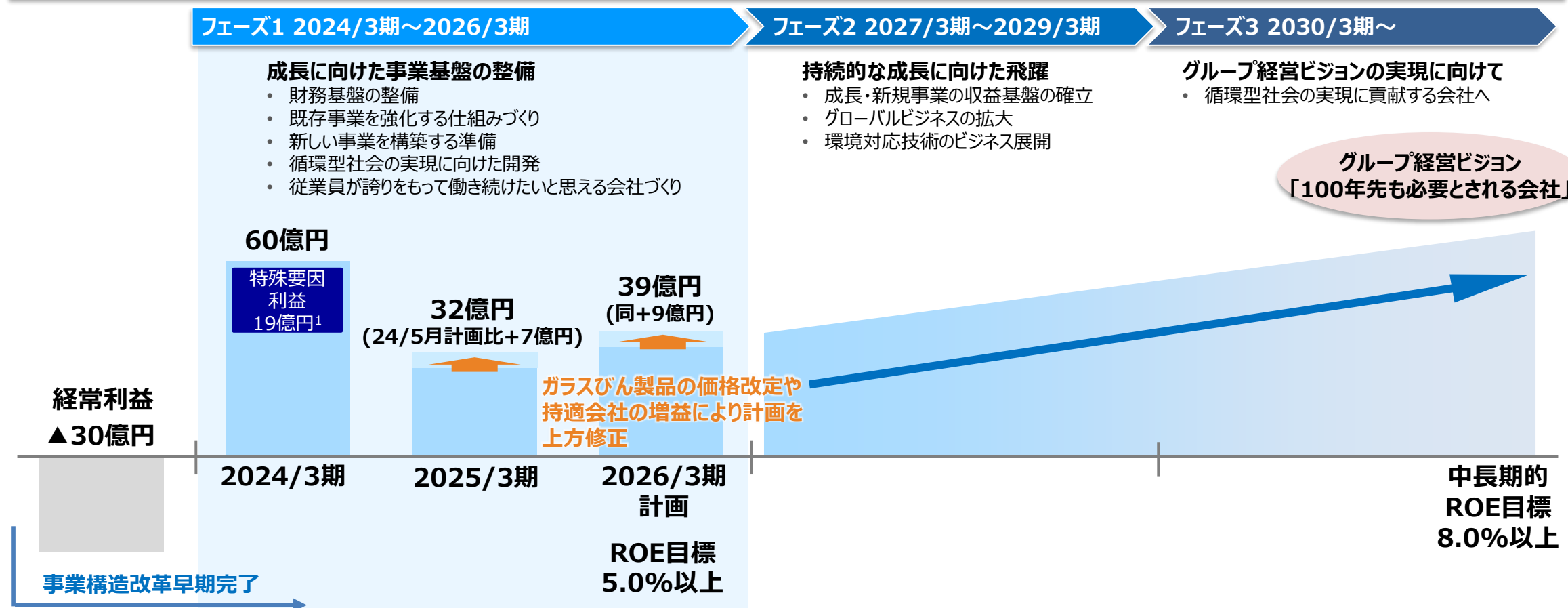
※2025年3月期計画値は、2024年5月15日公表の見直し計画

1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 中期経営計画の進捗および資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
3. トピックス

中期経営計画の進捗

- 1期目の2024/3期は事業構造改革の進展により黒字転換。2期目の2025/3期は更新投資の減価償却費の増加等あるも、原燃料調達価格の上昇が想定よりも低位に推移し、ガラスびん製品の価格改定効果により、昨年5月に見直した利益計画を超過しROE5%を達成
- 最終年度の2026/3期も価格改定効果や持分法適用関連会社の増益を織り込み、利益計画を上方修正。引き続き、ROE5%以上を維持する見込み

グループ経営ビジョンと本中期経営計画の位置付け



1. 海外関連会社への貸付金全額返済等

中期経営計画の進捗（セグメント別）

セグメント別の計画数値と基本方針

	実績/計画 ¹			現状認識と基本方針	
	2024/3期	2025/3期	2026/3期		
ガラスびん 関連事業	売上高	477億円	470億円	457億円	<ul style="list-style-type: none"> 変動する需給バランスに対応した最適な製造販売体制の構築 生産支援システムや省人化設備導入拡大等による人材不足への対応 多様化する市場ニーズに応える高付加価値品の開発 脱炭素社会に向けた技術開発
	経常利益	37億円	21億円	26億円	
プラスチック容器 関連事業	売上高	75億円	82億円	88億円	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック環境問題に配慮した製品開発や企業、自治体、学校等と協力したペットボトルキャップのリサイクル推進による事業機会の創出 原料、各種資材の安定調達及びコスト削減による収益力強化 海外子会社や提携先との連携によるアジアでの販売強化
	経常利益	4億円	5億円	4億円	
物流 関連事業	売上高	146億円	147億円	157億円	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い事業範囲で蓄積したノウハウ活用による既存事業拡大と新規顧客獲得 グループ内相乗効果による新規業務受託と輸送ネットワーク構築 既存業務の効率化や品質向上による利益体質の強化
	経常利益	6億円	7億円	8億円	
ニューガラス 関連事業	売上高	27億円	31億円	35億円	<ul style="list-style-type: none"> 主力分野である半導体周辺エレクトロニクス関連と燃料電池等環境エネルギー関連において営業活動強化や生産技術開発を推進、グローバルに事業を拡大 高速通信、半導体、センサー、映像用製品、自動車関連製品の販売拡大
	経常利益	▲1億円	1億円	4億円	

1. 連結経常利益には、表中の各セグメントの経常利益に含まれない全社費用等あり

株主還元方針

- 2024年5月、株主還元方針（連結配当性向30%を目安、1株当たり配当金50円下限）を設定
- 2025年2月、本中計の順調な進捗や2026/3期の利益計画の引上げを踏まえて、2025/3期から株主還元方針を強化
連結配当性向**50%を目安**とし、1株当たり配当金**50円を下限**に、利益成長に応じた継続的な配当額増加を目指す方針
- 2025/3期の1株当たり配当金は85円増配の135円。2026/3期見込みは15円増配の150円。

株主還元方針

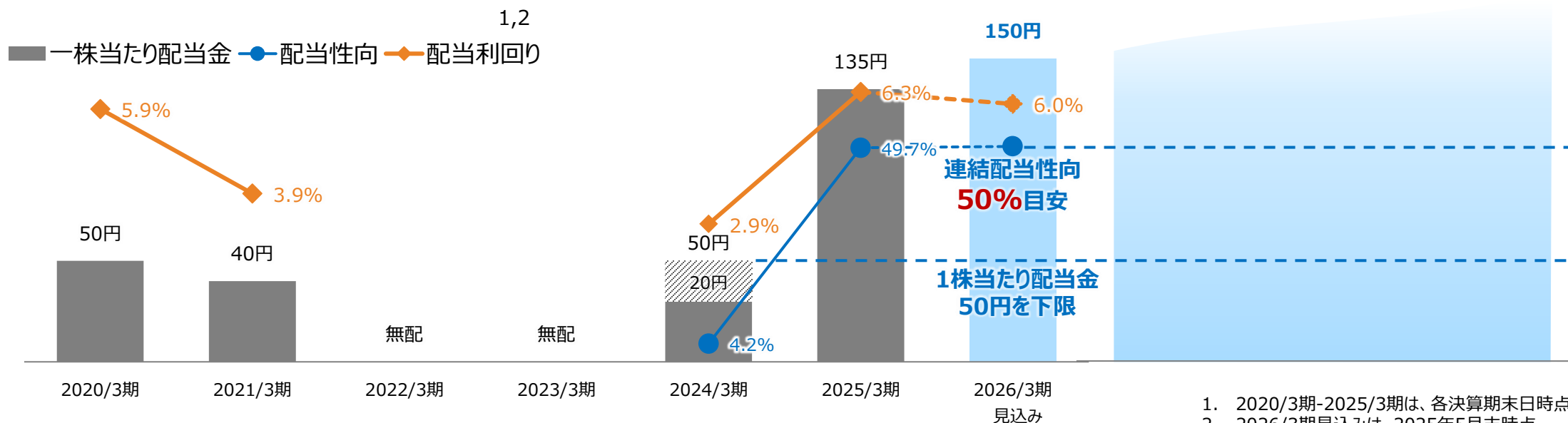
配当実績

配当方針

- 業績に応じた配当を継続的に行うことを基本に、投資や財務状況等を総合的に勘案しながら、積極的に株主に利益還元する方針

本 中期経営計画

次期 中期経営計画～

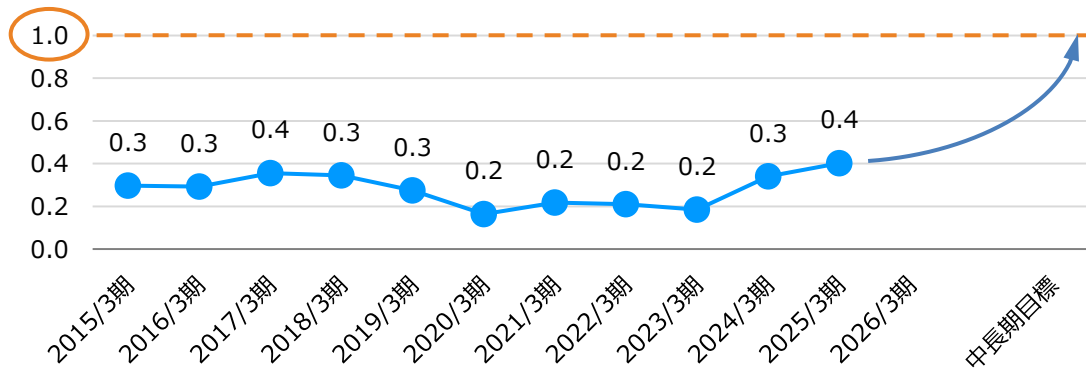


資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

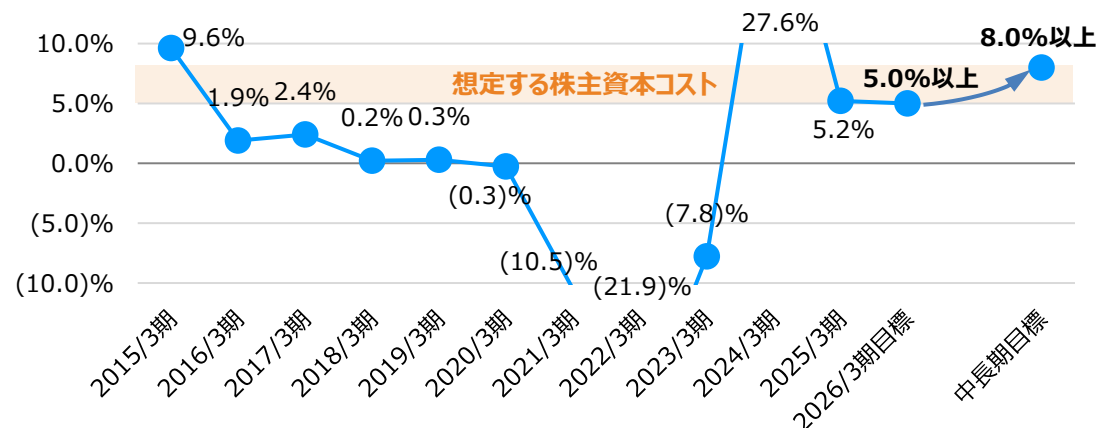
- 本中計開始以降、利益創出の安定性は向上も、PBRは引続き1倍を下回って推移。ROEは2026/3期も5%以上を維持する見込みも、中長期目標8%達成のためには事業戦略、資本政策ともに更なる取組みが必要と認識
- 本中計では引き続き、資本収益性の向上と株主資本コストの低減に向けた取組みを継続し、企業価値の向上を目指す

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

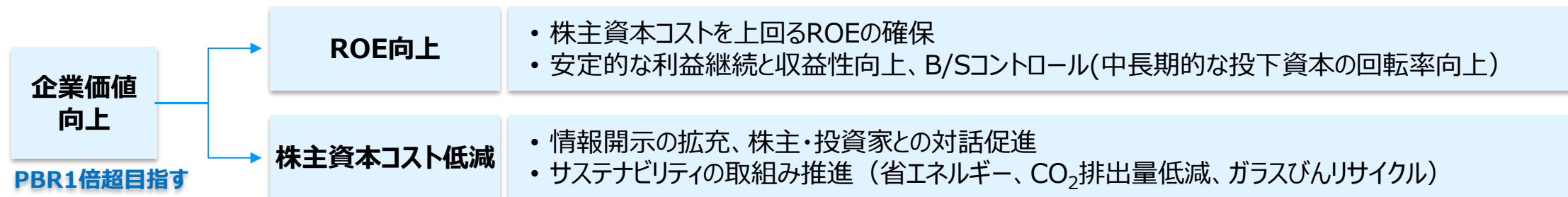
現状認識：PBR



現状認識：ROE



企業価値向上に向けて



1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 中期経営計画の進捗および資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
3. トピックス

気づけば、
つながる。

REBORN

CAP
PROJECT

LET'S START REBORN CAP PROJECT! LET'S START REBORN CAP PROJECT! LET'S START REBORN CAP PROJECT!

はじめよう!
キャップのリサイクル

ふだん何気なく飲んでるペットボトル飲料のボトルキャップ。
捨てちゃえば、ただのゴミだけど新しく価値あるモノに再生すれば、
また出会えるってことよね。これっていわゆるサステナブル?



TEAM
EXPO
2025

 日本山村硝子

- 「REBORN CAP PROJECT」の取り組みとして参加
- 当社が推進するペットボトルキャップのリサイクル活動について展示

期間：9月19日(金)～9月21日(日)

【プラスチック】TEN-CAPを活用した水平リサイクル

【日本初※¹】酒類飲料ペットボトルキャップ

- **キリンビール株式会社**
会員制生ビールサービス「**キリン ホームタップ**」
「**一番搾りプレミアム**」1Lペットボトル



期間限定で導入し、
水平リサイクルの
実証実験を実施。

※1：株式会社ナレッジワイヤによる G-search システム、日経テレコンでの報道発表等調査及びその他地方紙などの調査に基づく。2024年10月21日及び24日調査実施。

【日本初※²】清涼飲料ペットボトルキャップ

- **立命館大学の学生団体「Cap Ring Water Project」、**ダイドー・タケナカビバレッジ株式会社**との協業事業**



大学内で使用済みペットボトル
キャップを集めて水平リサイクル。
キャップとして採用したミネラル
ウォーターを大学内で販売。

※2：株式会社ナレッジワイヤによる G-Search 新聞・雑誌記事横断検索、日経テレコン（日経関連紙・誌記事）検索に基づく。2025年3月14日調査実施。



キャップリサイクルの 可能性を広げる取り組み

- 日本で初めて※1、使用済み PET ボトルキャップを原材料に使用し、**製織した「ポリエチレンクロス」を開発**
(当社、TRIFE DESIGN、北辰化成工業の協業事業)
- 縫製品などに加工し、様々な用途に展開が可能
- 金型が不要であり、キャップのリサイクル・アップサイクルの間口が広がる



※1 株式会社ナレッジワイヤによる G-Search 新聞・雑誌記事横断検索、日経テレコン（日経関連紙・誌記事）検索に基づく。2025年2月25日調査実施。

【ガラスびん】（自主認定） ガラスびんリサイクルマークを制定

- 当社が加盟する日本ガラスびん協会で制定し運用を開始
- ラベル等に表示し、消費者の分別排出を分かりやすくする

<目指すこと>

**「びんtoびん」水平リサイクルのさらなる推進
リサイクル率向上による循環型社会への貢献**

何度でも水平リサイクルが可能な「ソーダ石灰ガラス」であること、再生原料(カレット)を利用して製造されたガラスびんであることを表す



(シンボルマーク)

【ガラスびん】水素燃焼によるサステナブルなガラスびんの生産

- 当社、山村製壘所(当社グループ)、日本エア・リキードが共同実施
- 元より環境性に優れた酸素燃焼炉にて、使用する**燃料の一部を水素に置き換え、CO₂排出量削減の可能性をさらに広げる**取り組み
- 通常の方法で生産されたびんと同等の品質を得ることに成功
- サントリーのワイン、「SUNTORY FROM FARM 登美の丘 赤 時のかさね (CO₂削減びん使用)」に採用、**大阪・関西万博内のレストランにて販売**



日本国内で唯一※1の酸素燃焼炉（山村製壘所）で水素燃焼によるびんの生産に成功

※1：2025年6月時点

【ガラスびん】 ガラスびんアワードを受賞

- 「第21回ガラスびんアワード 2025」にて、当社・当社グループ品が受賞

優秀賞



KUBOTA GIN
朝日酒造株式会社 越路蒸留所
(日本山村硝子)

優秀賞



ARCABUZ Rhum Japonais BLANC
大東製糖種子島株式会社
(山村製壺所)



審査員のリリー・フランキー氏、富永美樹氏、未来リカ氏

リリー・フランキー賞



東海道サイダー
木村飲料株式会社
(日本山村硝子)

日本ガラスびん協会特別賞



マルホン胡麻油
竹本油脂株式会社
(日本山村硝子)

- ニューガラスカンパニーが「IATF16949」の認証を取得

※IATF16949：
自動車産業に特化した品質マネジメントシステムに関する国際規格
(日本品質保証機構 HPより引用)

今後の電気自動車化によって
市場拡大が見込まれる
自動車関連製品(センサー部品等)
の販売拡大を目指す



- 山村ロジスティクス（当社グループ）が、物流現場改善優良認定制度※¹において、**物流現場改善優良認定2025年度（ブロンズ）**に認定

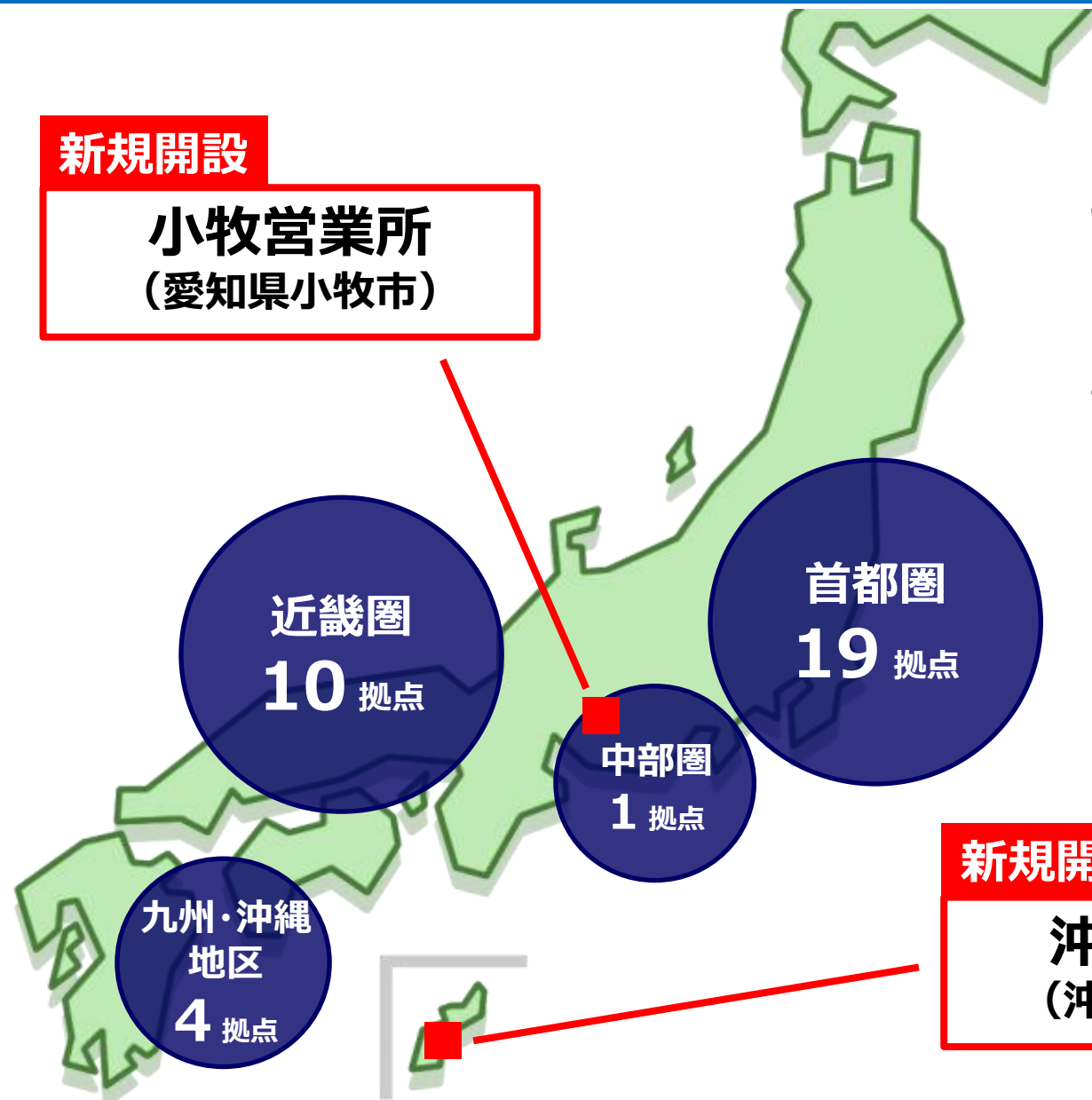
※1：公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会による

- **約1,000社の中から12社が認定**

- ダイヤモンド：3社
- プラチナ：2社
- ゴールド：3社
- シルバー：1社
- **ブロンズ：3社**



【物流】山村ロジスティクス 新規営業所 開設



新規開設

小牧営業所
(愛知県小牧市)

近畿圏
10 拠点

首都圏
19 拠点

中部圏
1 拠点

九州・沖縄
地区
4 拠点

新規開設

沖縄営業所
(沖縄県那覇市)

- 中部圏、沖縄にそれぞれ拠点を新規開設
- 国内を横断するネットワークを広げている

日本国内

計 **34** 拠点

【植物工場】気候変動に対応した野菜の安定供給

- 季節ごとに供給不安に陥りやすい野菜を、**一年中安定した品質・量・価格**でお届けできる体制を確立
- 気候変動で不足しやすく、植物工場での栽培例が少ない**水菜・春菊・サニーレタス**を安定生産



気候変動による深刻な在庫不足や
価格高騰の不安を解消

健康をサポートする高機能野菜
(ケール) の開発に加えた
新たな取り組み



- 神戸大学と共同で、頭頸部がん放射線治療に用いる患者固定具「**CustomFix-3D**」を開発

特許取得

CTなどのデータを用いて患者の体形をデータ上で再現
▶ ジャストフィットする固定具を外部の製造工場で作製

解決する課題

＜従来＞ 患者自身を型にして作製する方法が主流

- ・患者に与える苦痛
- ・性能面での問題
- ・現場の医療者への固定具作製に関わる時間ロス

など



- 本資料は情報の提供を目的に作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 掲載内容について注意を払っておりますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が本資料発表日現在において入手している情報および合理的であると判断される一定の前提に基づいており、当社としてその実現を保証するものではなく、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料における情報につきましては、各自の判断、責任においてご利用いただきますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じた、いかなる損害に関しても、当社は一切責任を負いません。
- 当社の許可なく本資料の全部または一部を複製、転写等により使用することを禁止いたします。



日本山村硝子株式会社

Heart & Technology